

## 小学校第6学年学習到達度調査の調査結果の概要について

### 1 調査の概要

(1) 実施期間 令和2年12月14日（月）から令和3年1月15日（金）までの間、学校にて調査日を設定

(2) 調査対象 県内公立小学校、義務教育学校及び特別支援学校の第6学年の児童

(3) 調査事項等

#### ○ 質問紙調査

- ・学習に対する主体性、規範意識、生活の諸側面等に関する調査を実施した。
- ・児童は、G Suite for Educationを使用し、パソコン等を操作して回答した。

#### ○ 教科に関する調査

- ・国語、社会、算数及び理科の調査を実施した。
- ・調査内容は、主として小学校第6学年の学習内容とした。
- ・児童は、G Suite for Educationを使用し、パソコン等を操作して解答した。
- ・解答選択式のみの出題とした。
- ・各教科において、動画を用いた問題を1～3問実施した。

(4) 参加状況

	実施校	児童数
小学校	190	10,394
義務教育学校	3	10
特別支援学校(小学部)	3	8

### 2 教科に関する調査結果の概要

国語	社会	算数	理科
16.6/22	17.4/23	15.1/20	14.7/18
75.6	75.6	75.6	81.5

(上段：平均正答数 下段：到達度(%)) ※到達度・・・各教科の平均正答率

各教科において、県全体で7割程度の到達度を目標にして問題を作成した。4教科ともに7割～8割の到達度であることから、全体として県内の小学6年生は今年度の学習内容を概ね身に付けているものと考えている。

### 3 調査結果の活用

#### ○ 各学校

- ・各学校において、児童の全般的な学習の更なる充実に努める。
- ・児童の学習状況を踏まえ、個に応じて対応する。

#### ○ 各市町村教育委員会

- ・学校における取組等に対して必要な支援等を行う。

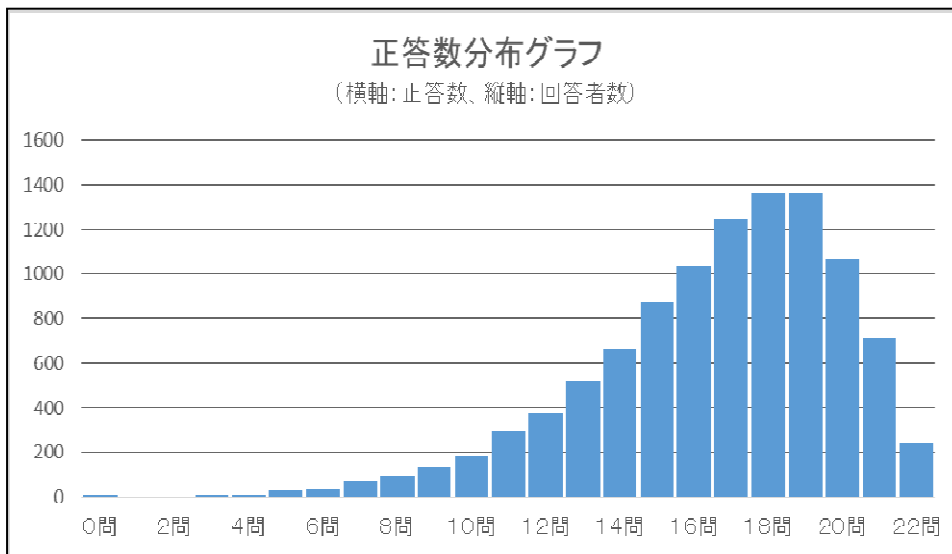
#### ○ 県教育委員会

- ・児童の学習状況を把握・分析することにより、各市町村教育委員会及び学校における取組に対して必要な支援等を行う。

## ○ 国語の調査結果

児童数	平均正答数	到達度(%)
10,333	16.6/22	75.6

正答数集計値 (左: 児童数 右: 割合(%))		
22問	240	2.32
21問	716	6.93
20問	1073	10.38
19問	1367	13.23
18問	1366	13.22
17問	1248	12.08
16問	1038	10.05
15問	876	8.48
14問	660	6.39
13問	520	5.03
12問	370	3.58
11問	296	2.86
10問	186	1.80
9問	135	1.30
8問	95	0.92
7問	67	0.65
6問	33	0.32
5問	31	0.30
4問	8	0.08
3問	7	0.07
2問	0	0.00
1問	0	0.00
0問	1	0.01



### ◇分析と課題

#### 〈結果の概要〉

平均正答数は22問中16.6問であり、到達度(平均正答率)は75.6%である。この結果から、小6児童は、今年度に学習する国語科の内容を概ね身に付けているものと考えている。

#### 〈領域・単元ごとの状況〉

- 知識及び技能(到達率 81.2%) ※到達率=各設問における正解者数の割合  
13問のうち9問において到達率が80%以上である。ただ、例文に示した同音異義語の中から正しい漢字を選ぶ問題、また、4つの選択肢のうち1つだけ意味の違うことわざを選ぶ問題において、到達率が50.7%となっている。
- 話すこと・聞くこと(到達率 73.5%)  
話合いの様子の一部を読み、発言者の質問の意図を問う問題において、到達率が51.6%となっている。
- 書くこと(到達率 74.6%)  
係り受けを考えて文を正しく直す問題では、85~95%の到達率である。一方、文章を読んでその構成の工夫を問う問題においては、到達率が50.7%である。
- 読むこと(到達率 54.6%)  
文章を読んで要旨を把握したり必要な情報を見付けたりする設問が、他の領域に比べて到達率が低い。特に、物語の一部を読んで登場人物の心情を捉える問題では、到達率が35.1%である。

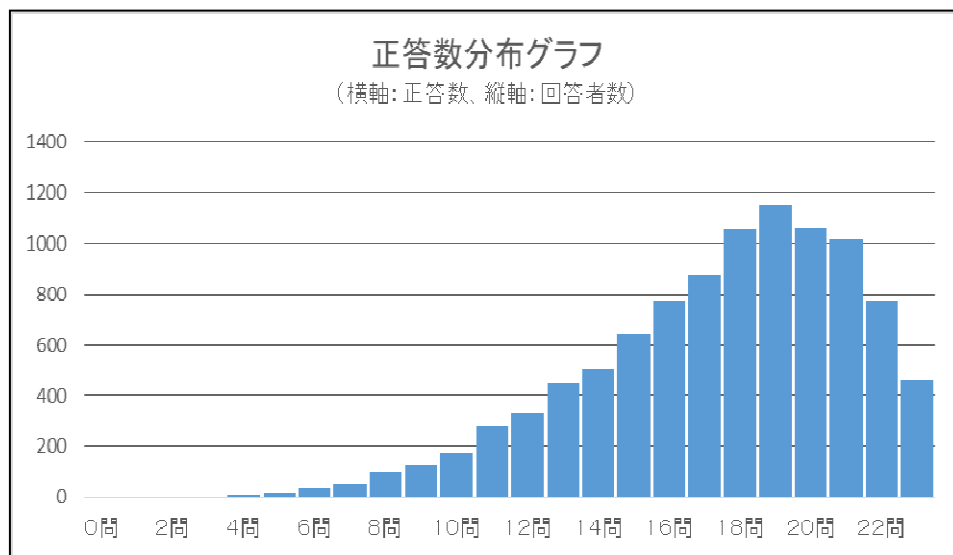
#### 〈課題の改善に向けて〉

- ・文章を読んで解答する問題において到達率が低いため、内容の把握や解釈をするなど「読むこと」の力を付ける指導を行う必要があると考える。例えば、児童に本調査問題程度の短い文章を読ませた上で、いくつかの問いに取り組みさせる方法などが考えられる。
- ・漢字の書き取りでは、同音異義語についての確認をする必要がある。小学校で学習した漢字を復習する際に、正しい漢字を書くことだけでなく、具体的な使い方を示しながら指導することが必要である。

## ○ 社会の調査結果

児童数	平均正答数	到達度(%)
9,898	17.4/23	75.6

正答数集計値 (左: 児童数 右: 割合(%))		
23問	460	4.65
22問	771	7.79
21問	1015	10.25
20問	1065	10.76
19問	1152	11.64
18問	1052	10.63
17問	871	8.80
16問	770	7.78
15問	645	6.52
14問	503	5.08
13問	453	4.58
12問	327	3.30
11問	283	2.86
10問	174	1.76
9問	130	1.31
8問	101	1.02
7問	51	0.52
6問	37	0.37
5問	20	0.20
4問	10	0.10
3問	4	0.04
2問	2	0.02
1問	0	0.00
0問	2	0.02



### ◇分析と課題

#### 〈結果の概要〉

平均正答数は23問中17.4問であり、到達度(平均正答率)は75.6%である。この結果から、小6児童は、今年度に学習する社会科の内容を概ね身に付けているものと考えている。

#### 〈領域・単元ごとの状況〉

- 我が国の政治の働き(到達率74.3%) ※到達率=各設問における正解者数の割合  
5問のうち3問において到達率が80%以上である。「地方公共団体の政治」の到達率は90.8%であることから、収入と支出を示す2つのグラフを比べ、グラフから情報を読み取る技能が身に付いていると考えられる。「国民と政治の関わり」の到達率は45.6%で、国会・内閣・司法と国民との関わりについて考える力に課題が見られる。
- 我が国の歴史上の主な事象(到達率76.0%)  
18問のうち9問において到達率が80%以上である。「室町時代の文化財」の到達率は96.0%であり、室町時代の代表的な絵画と制作者である雪舟に関する知識が身に付いていると考えられる。「鎌倉幕府の始まり」は26.6%の到達率であり、源頼朝の業績と武士による政治の仕組みをつくり上げたことへの理解に課題が見られる。また、同問題において「源頼朝は京都に幕府を開いた。」という誤りの選択肢を選んだ児童が52.9%であることから、歴史の学習において、地理的な認識が不足していると考えられる。「江戸時代の鎖国政策」は46.3%、「開国と江戸幕府の終わり」は55.0%の到達率である。いずれも社会的事象を起こった順に並べる問題で、社会的事象間の因果関係の理解に課題が見られる。

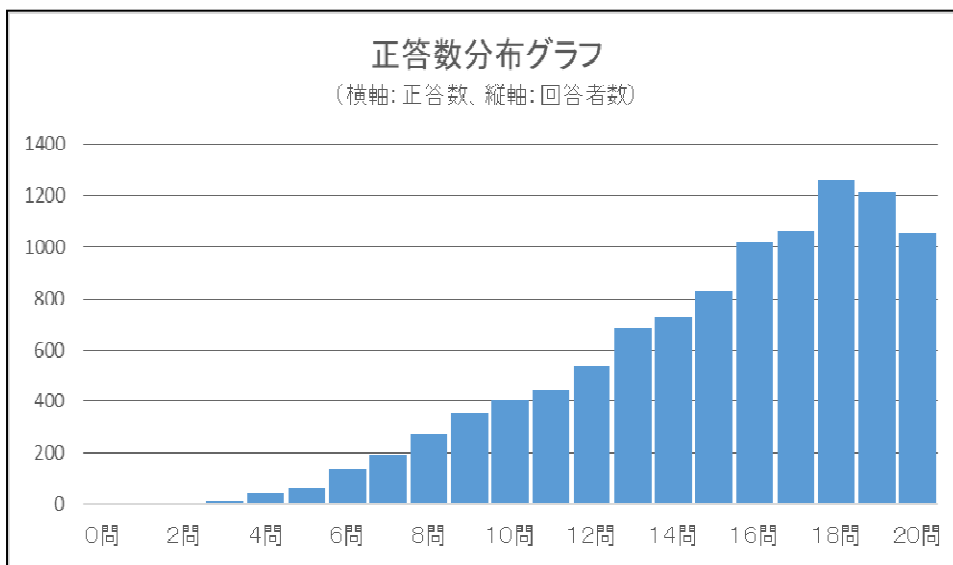
#### 〈課題の改善に向けて〉

- ・個別の社会的事象の特色についての理解に加え、相互の関連を多角的に考える力を身に付ける必要がある。社会的事象間における原因と結果について考え、年表や図表にまとめることにより身に付けさせる方法などが考えられる。
- ・歴史の学習の中で地理的な認識を踏まえて考えることができるよう、歴史上の主な事象を調べたりまとめたりする際、地図を活用してその場所を確認させる方法などが考えられる。

## ○ 算数の調査結果

児童数	平均正答数	到達度(%)
10,328	15.1/20	75.6

正答数集計値 (左:児童数 右:割合(%))		
20問	1053	10.20
19問	1209	11.71
18問	1259	12.19
17問	1062	10.28
16問	1016	9.84
15問	829	8.03
14問	730	7.07
13問	685	6.63
12問	538	5.21
11問	446	4.32
10問	403	3.90
9問	357	3.45
8問	272	2.63
7問	196	1.89
6問	138	1.33
5問	68	0.66
4問	40	0.39
3問	14	0.14
2問	6	0.06
1問	2	0.02
0問	5	0.05



### ◇分析と課題

#### 〈結果の概要〉

平均正答数は20問中15.1問であり、到達度(平均正答率)は75.6%である。この結果から、小6児童は、今年度に学習する算数科の内容を概ね身に付けているものと考えている。

#### 〈領域・単元ごとの状況〉

##### ○数と計算(到達率 73.5%)

※到達率=各設問における正解者数の割合

14問のうち10問において到達率が70%以上である。一方、1m当たりの棒の重さを求める場面など、除法を用いることについての理解に課題が見られる。また、分数の除法の計算に課題が見られる。

##### ○図形(到達率 80.7%)

円を分割して並べ替えたときにできる長方形について、横の長さが円周の半分であることについての理解に課題がある。また、日常の事象を題材にして円の面積の大小関係を比較することに課題がある。

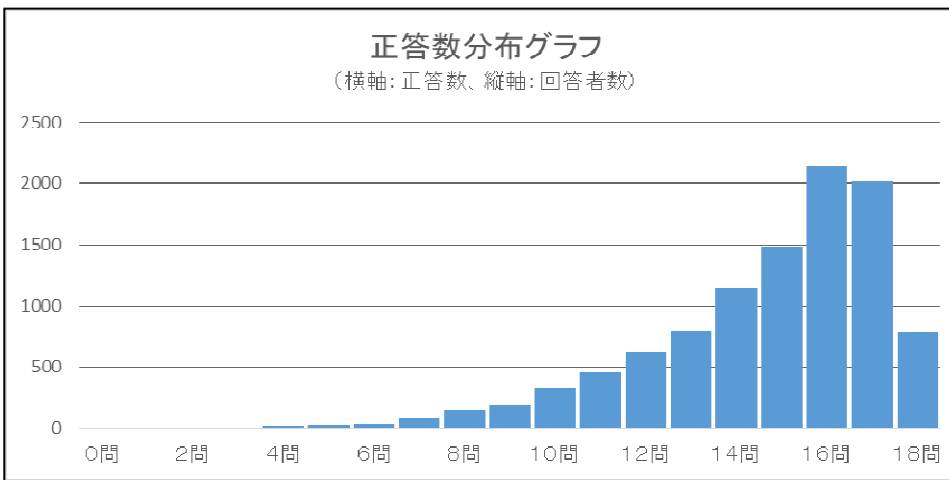
#### 〈課題の改善に向けて〉

- ・問題場面を的確に捉え、数量の関係を図や数直線などに表すことは、問題を解決する上で大切である。その際、数直線上の数量の対応関係や大小関係を的確に捉えることができるようにすることが必要となる。具体的には、テープの図や数直線などを用いて、一定の長さ当たりの重さがどのくらいであるかを確認させる活動などが考えられる。
- ・図形の問題においては、正方形の内側にある大きい円と小さい円の半径を、正方形の1辺の長さを基にして求め、その値を用いて円の面積の大小関係を比べるなど、解答までの手順が大切になる。そのため、式と図とを対応させ、直径、半径などの用語を用いて、それらの関係を明確にして式の説明をさせる活動をするなどが考えられる。

## ○ 理科の調査結果

児童数	平均正答数	到達度(%)
10,325	14.7/18	81.5

正答数集計値 (左: 児童数 右: 割合(%))		
18問	785	7.60
17問	2019	19.56
16問	2139	20.72
15問	1485	14.38
14問	1145	11.09
13問	797	7.72
12問	625	6.05
11問	460	4.46
10問	339	3.28
9問	191	1.85
8問	148	1.43
7問	88	0.85
6問	41	0.40
5問	27	0.26
4問	18	0.17
3問	7	0.07
2問	3	0.03
1問	4	0.04
0問	4	0.04



### ◇分析と課題

#### 〈結果の概要〉

県内で統一して実施した問題の平均正答数は18問中14.7問であり、到達度(平均正答率)は81.5%である。この結果から、小6児童は、今年度に学習する理科の内容を概ね身に付けているものと考えている。

#### 〈領域・単元ごとの状況〉

- 燃焼の仕組み(到達率 89.7%) ※到達率=各設問における正解者数の割合  
全ての問題において到達率が80%以上である。特に、二酸化炭素と酸素のはたらきを問う問題と、ものの燃え方と空気の動きを日常生活の現象と結びつけて考える問題では、90%以上の到達率である。
- 人の体のつくりと働き(到達率 80.4%)  
5問のうち3問において到達率が80%以上である。消化管について問う問題では、食道と消化管の語句を正しく理解していないことが考えられる。呼吸における気体の出入りでは、気体検知管を正しく読み取ることができていないために誤答となったと考えられる。
- 植物の養分と水の通り道(到達率 72.5%)  
蒸散を問う問題では、蒸発との誤答が見られた。植物のはたらきである「蒸散」を正しく理解できていないことが考えられる。また、水の通り道について問う問題では、道管は1つであるという誤答が多くあった。
- 生物と環境(到達率 91.3%)  
全ての問題において到達率が80%以上である。光合成による気体の出入りの問題では、呼吸による気体の出入りと同じだと捉えて答えている誤答が見られた。
- 月と太陽(到達率 71.6%)  
地球、月、太陽を示した図から、月の形の見え方を問う問題では、到達率が88.0%である。しかし、実際に地球上で観察した月の形の見え方を問う問題では、到達率が33.2%で、学習したことを活用する力に課題が見られる。

#### 〈課題の改善に向けて〉

- ・理科において実験・観察を行うことは、児童が知識を身に付ける上で効果的である。植物の水の通り道を調べる実験などは、求める結果を得るのが難しい実験の1つと考えられるが、児童の直接体験を大切に、様々な機会を通じて実験・観察をする必要がある。
- ・月の形の見え方について考えるときは、天体の動きを空間的に捉えることが大切である。月と太陽の位置と人が見ている向きを考え、紙面上では表されない部分まで立体的に考えられるようにする必要がある。そのため、ボールなどのモデルを使って問題の状況を再現し、実際に視覚的に確認させる方法がある。また、学習したことを日常生活と関連付けるような機会をもつ必要があると考えられる。

## 質問紙調査の結果(抜粋)

### ○学習に対する主体性・時間等

( )内の数字は全国平均

質問	回答	(参考) 全国学力・学習状況調査				
		H31	H30	H29	H28	H27
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか (している、どちらかといえばしている)	64.4	66.9 (71.5)	62.8 (67.6)	59.3 (64.5)	56.8 (62.2)	57.4 (62.8)
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか (全くしない)	5.0	3.9 (2.3)	4.1 (2.5)	4.6 (2.9)	4.4 (3.0)	3.9 (3.0)
学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか (全くしない)	27.0	22.6 (18.7)	22.9 (18.7)	24.3 (20.5)	24.0 (20.6)	23.5 (19.9)

学習に対する主体性に関する質問項目である「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」については、約6割の児童が肯定的な回答をしているが、昨年度の全国学力・学習状況調査における県平均との比較において、2.5ポイント下回っている。

また、約3割の児童が、学校の授業時間以外に読書を全くしていない。

### ○規範意識

( )内の数字は全国平均

質問	回答	(参考) 全国学力・学習状況調査				
		H31	H30	H29	H28	H27
学校のきまりを守っていますか (当てはまる、どちらかといえば当てはまる)	90.5	90.8 (92.3)	86.5 (89.5)	91.1 (92.6)	89.6 (91.5)	89.1 (91.1)
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか (当てはまる、どちらかといえば当てはまる)	97.8	97.5 (97.1)	96.9 (96.8)	96.4 (96.1)	97.0 (96.6)	96.8 (96.2)
人の役に立つ人間になりたいと思いますか (当てはまる、どちらかといえば当てはまる)	96.6	96.0 (95.2)	95.7 (95.2)	93.2 (92.5)	94.3 (93.8)	94.1 (93.7)

規範意識に関する質問項目である「学校のきまりを守っていますか」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」については、いずれも9割以上の児童が肯定的な回答をしている。また、昨年度の全国学力・学習状況調査における県平均との比較において、「学校のきまりを守っている」で0.3ポイント下回っているものの、「いじめはいけない」では0.3ポイント、「人の役に立つ人間になりたい」では0.6ポイント、それぞれ上回っている。

### ○自尊意識・挑戦心

( )内の数字は全国平均

質問	回答	(参考) 全国学力・学習状況調査				
		H31	H30	H29	H28	H27
自分には、よいところがあると思いますか (当てはまる、どちらかといえば当てはまる)	75.8	79.8 (81.2)	82.6 (84.0)	76.2 (77.9)	74.5 (76.3)	76.2 (76.4)
将来の夢や目標を持っていますか (当てはまる、どちらかといえば当てはまる)	79.2	83.5 (83.8)	84.1 (85.1)	84.6 (85.9)	84.5 (85.3)	85.7 (86.5)
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか (当てはまる、どちらかといえば当てはまる)	71.7	77.4 (79.0)	—	76.3 (77.4)	74.7 (76.1)	75.4 (76.4)

自尊意識・挑戦心についての質問項目である「自分には、よいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」について、7割以上の児童が肯定的な回答をしているが、昨年度の全国学力・学習状況調査における県平均との比較において、4.0～5.7ポイント下回っている。

## ○ I C T 機器の活用

( )内の数字は全国平均

質問	回答	(参考) 全国学力・学習状況調査				
		H31	H30	H29	H28	H27
6年生の授業(※)で、コンピュータなどのI C T機器をどの程度使用しましたか (ほぼ毎日、週1回以上)	56.0	24.2 (30.6)	—	—	—	—
授業でもっとコンピュータなどのI C T機器を活用したいと思いませんか (当てはまる、どちらかといえば当てはまる)	88.0	85.8 (86.5)	—	—	—	—
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのI C T機器を、勉強のために使っていますか (全く使っていない)	17.4	—	—	—	—	—

※平成31年度全国学力・学習状況調査では、「5年生までに受けた授業」

I C T機器の活用についての質問項目である「6年生の授業で、コンピュータなどのI C T機器をどの程度使用しましたか」について、5割以上の児童が、「授業で、コンピュータなどのI C T機器を週1回以上使用している」と回答し、昨年度の全国学力・学習状況調査における県平均との比較において、31.8ポイント上回っている。「授業でもっとコンピュータなどのI C T機器を活用したいと思いませんか」については、9割近くの児童が肯定的な回答をしている。

また、約2割の児童が、普段、勉強のためにI C T機器を全く使っていないと回答している。